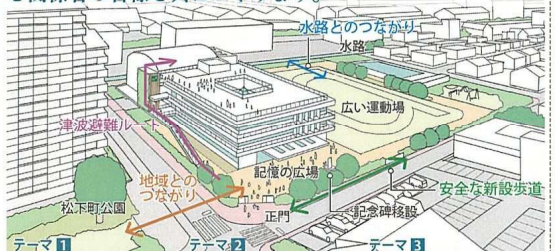
様式第３（A3 判）

C

テーマ　①文部科学省が定めている「小学校施設整備指針」、本市教育委員会が定めている「ナゴヤ学びのコンパス」を踏まえた、子ども中心の学びを実現する空間づくりや、探求学習を行うための諸室整備等の考え方について②昭和 34 年の伊勢湾台風で大きな被害があった実情を踏まえた、避難所機能が充実した施設整備の考え方について③今後、市が主催予定の地域・保護者・学校との対話の場である懇談会での意見を反映するための設計業務の実施体制及びコミュニケーションの取り方について

地域に根付く防災教育を継承し、未来に向けた『子ども中心の学びの場』と『地域防災拠点』を関係者の皆様と共につくります。



テーマ 1	テーマ 2	テーマ 3
・校舎の中心「ラーニングセンター」 ・独立型の学年コモンズ	・２階に地域防災拠点を配置 ・フェーズフリーな災害対策	・共につくる「対話の設計」 ・３校合同児童ワークショップ

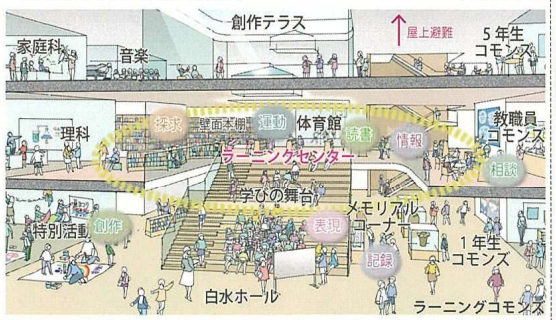
1 子ども中心の学びや探求学習を実現する空間づくり

■学び・気づき・交流を一つの空間に集約した「ラーニングセンター」

- 新校舎の中心に読書・学習・情報のセンターとなり、多様で創造的な学びと交流を可能にする「**ラーニングセンター**」を提案します。
- 各エリアを**回遊動線**でつなぎ、探求心・学び合いを学校全体に広げます。
- 昇降口からラーニングセンターに向かって大きな階段を設け、発表や表現の場となる「**学びの舞台**」を計画します。
- 特別教室はラーニングセンターに隣接させ、「調べる」と「創る」のシームレスな **STEAM 学習**を可能にします。



学びのリング



多様な学びのスタイルに合わせた学年コモンズ・普通教室

■学年に合わせた特色ある独立型の学年コモンズ

- 各学年スペースは成長段階に応じた**特色のある学習環境**とし、他学年の通り抜け動線のない独立型の**学年コモンズ**とします。

低学年コモンズ　一日をコモンズ内で過ごす子どもたちにふさわしい生活・学び・交流の場



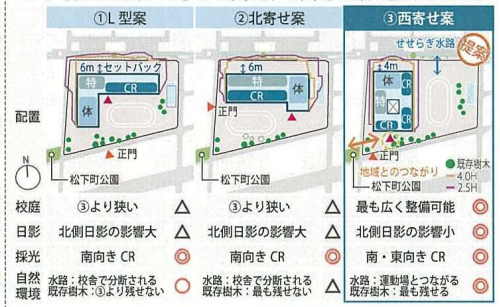
高学年コモンズ　教室前に WS を設け、部屋の広さを替えながら多様な学習を実現



学年コモンズ

新しい統合校としての最適な配置案

- 様々な視点・項目を比較検討し、災害も含めた地域の統合小学校として**安全な学びを実現する西寄せ案**を提案します。



安心・安全な通学路

- ３校各校区から**歩道で登校**しやすい敷地南西を正門にします。
- **敷地南側に歩道を新設**することで、登校の安全性を高めます。



環境配慮・ZEB Ready エコスクール

- 再生可能エネルギーの活用で、環境にやさしい **ZEB Ready** を目指します。









❶正門から近く視認しやすい児童・来客玄関
❷発表・交流が可能な大階段がある白水ホール。吹抜空間で見る・見られる関係を構築
❸３校の思い出、水害の記録を展示。伐採樹木を再利用しベンチやレリーフ・サインとして再生利用



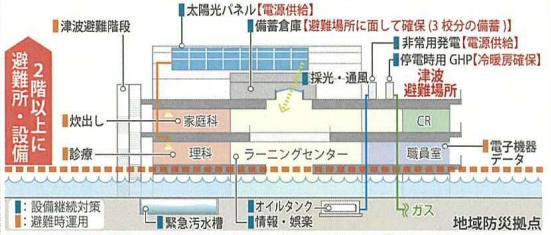
❹落ち着きのある専用テラス付きの特支学級
❺屋外製作が可能なテラスのある図工室
❻運動場に近く、保健室登校しやすい保健室
❼独立した動線のトワイライトエリア
❽学年コモンズごとにトイレを設置
❾ICT 教育の環境整備とし壁一面ホワイトボードを提案



2 地域の安全・安心の象徴となる地域防災拠点

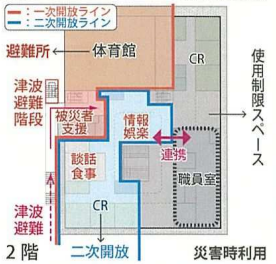
■2 階以上に支援・対策機能を集約し、避難所スペースを拡大化

- **体育館を 2 階に設置**し、独立した運用が可能な計画とすることで、災害時の人命確保と避難所の継続利用を図ります。
- 体育館に隣接して被災者支援室・特別活動室・相談室・職員用トイレを配置し、災害対策本部や物資配布、医療・福祉支援、避難者相談などを一体的に行える**防災フロアを形成**します。
- **職員室も 2 階**とし、防災監視設備や重要データを守るとともに、相談室や職員 WC を避難所側から利用しやすい位置に計画します。
- 停電やライフライン途絶に備え、太陽光発電・蓄電池・非常用発電設備・GHP を導入し**避難所の電源や空調を確保**します。



■日常と災害時の機能の両立

- 被災者の状況に応じてシャッターなどにより**段階的に開放可能な計画**とします。
- 短期避難の場合は体育館、長期化する場合は**段階的に開放**が**可能な計画**とします。
- 普通教室の一部は使用制限スペースとし、**早期再開と段階的に学校再開**を可能とします。
- 地域利用階段が津波避難階段になる**フェーズフリー**な計画。



3 対話の設計を重視し共につくる喜びを共有する設計実施体制

- 「**対話の設計**」を重視し、確実な意見集約を行います。
- 「新しい学校づくり懇談会」にはベテラン、若手、子育て世代のスタッフが参画し共に考えます。
- **３校合同児童ワークショップ**を行い、子ども目線の自由な発想を設計に活かし、ラーニングセンターや屋外空間を共に作ります。
- ３校で行われている**防災行事や親水活動を継承**し、水害に強く、水と共生する計画を目指します。
- 懇談会の進捗に合わせ、**図面・模型・CG・VR** などの活用により分かりやすい説明に努めます。
- 基本設計期間中の懇談会は１回予定されていますが、要望をより反映しやすい基本設計段階に、**建築計画に関する提案を３回実施**します。
- 段階的な提案と対話を重ね、地域や学校の想いを確実に設計へ反映し、**納得感のある施設づくりを実現**します。



新学校づくりに反映・未来へつなぐ

3 回 R8.9	4 回 R9.2	5 回 R9.5	6 回 R9.7	7 回 R9.12	8 回 R10.2
		基本		実施	
予定	事前準備	第 3.5 回 配置案	第 4 / 4.5 回 平面案	第 5 / 6 回 設計進捗報告	

具体的な方法
- 事前準備：要望事項の整理・分析
- 見学が行われた学校を視察
- 第 3.5 回 配置案：教職員ヒアリング
- 第 4 / 4.5 回 平面案：図面・模型にて複数案提示
- 第 4 / 4.5 回 平面案：事例写真にてイメージを共有
- 第 4 / 4.5 回 平面案：平面ゾーニング提示
- 第 5 / 6 回 設計進捗報告：平面図提示
- 第 5 / 6 回 設計進捗報告：安全性・防災対策・防犯対策に対する意見交換
- 第 5 / 6 回 設計進捗報告：工事工程・安全対策など説明
- 第 5 / 6 回 設計進捗報告：設計結果を CG や VR で共有

意見反映のための取組み